

あなたの感性で、
森の未来をデザインしませんか？

令和8年度
海上の森アカデミー

新森女養成 コース

○開催日 (全6日間)

10/31(土)、11/14(土)、15(日)、21(土) 28(土)、29(日)

○対象・定員

森女養成コース修了生やチェーンソーを使った
伐倒の経験がある女性 12名

(高校生以上)

主催：あいち海上の森センター

受講者募集

申込期限

10/7(水)

はじめに

**植え、育て、利用してきた森。
暮らしとともに受け継がれてきた里山。
地域の森林に、もう一度目を向けよう。**

人がスギやヒノキを植えた人工林（針葉樹林）は植えて終わりではなく、手入れをし、良い木を育て、伐って活用するのが本来の姿です。戦後、日本では様々な場所で植林が行われました。しかし最近では木材需要の低迷等の理由により、放置された人工林が少なくありません。

一方で、里山などの二次林（広葉樹林）も、人の利用や管理が減少したことで巨木化し、人による活用が難しくなっています。手入れがされない二次林は森林の遷移が進みますが、場合によっては生物多様性の低下や災害リスクの増大も懸念されています。

人工林と二次林が異なる課題を抱える中、里山にはそれらが混在しており、それぞれの森の特性を理解し、将来を見据えた森づくりに多くの人が目を向け、関わっていくことが求められています。

この講座では、森を調査し、その現状や可能性を読み解きながら、「どのような森にしていくなのか」を自ら考え、描き、実践する力を養います。

二次林のデザインは、設定する目標によってアプローチの仕方が異なるため、確立された方法がありません。そのため、本講座は学ぶだけでなく、受講生自身が考え、議論しながら100年後の森を見据えてデザインすることを目指します。



女性ならではの視点を活かし、森の未来を一緒に描いてみませんか？

※今年度は講座内容を一新し、森の調査・計画・デザインを中心とした実践的なプログラムへとレベルアップしました。

講師紹介

魅力あふれる講師陣です！



中島 彩さん

three tree(和歌山県)代表。27歳で林業の世界に転身。山づくり・人づくりの第一線で活躍中。林業現場人として山と山主さんに真摯に向き合う姿勢と、技術指導者として相手目線に立った丁寧な指導に定評があります。『現代林業』にて“その時現場が動いた！”を好評連載中です。
【2日目、3日目を担当します】



洲崎 燈子さん

元豊田市矢作川研究所主任研究員。博士(理学)。森林生態学を専門とし、長年にわたり矢作川流域の里山や水源林、河畔林の調査研究に携わってきました。自然環境の成り立ちや変化を明らかにしながら、人と自然とのより良い関わり方を探究しています。
【1日目、2日目、3日目、5日目、6日目を担当します】



高橋 啓さん

元NPO法人穂の国森林探偵事務所理事長。森林組合や地域づくり団体などでの経験を活かし、奥三河地域を中心に森林の活用や山主支援、人材育成に携わっていました。地域に根ざした森林管理と、森林を活かした地域づくりの活動をしています。
【1日目、5日目、6日目を担当します】



丹羽 健司さん

全国各地に「森の健康診断」や「木の駅プロジェクト」を展開。矢作川水系森林ボランティア協議会や足助きこり塾の立ち上げに関わるなど、森と人をつなぎ、元気にするための様々な活動を行っています。

10月31日(土)

森の成り立ち と将来像

森はどのように成り立ち、時間とともにどのように姿を変えていくのかなど、森についての基本的な知識を学びます。

また、森の将来像とその実現に向けたデザイン方法を考えます。



11月14日(土)

人工林の選木と伐倒

人工林を舞台に、選木や伐倒の基本を実践的に学びます。作業のポイントを確認しながら、安全で効果的な整備の進め方を身につけます。

また、伐採した木材の活用方法についても考えます。

11月15日(日)

二次林の調査・ デザイン・整備まで

二次林整備の基礎として、調査から伐倒までの一連の作業を実践的に学びます。現場で状況に応じて判断し、対応できる力を身につけます。



11月21日(土)

シカが森を食べている 獣害の現実と背景

深刻化する獣害の現状を知り、その背景にある森林環境や地域社会の変化について考えます。

現場からのリアルな声を交えながらお話いただきます。

11月28日(土)

実践①

二次林フィールドでグループごとに森の状態を調べ、森づくりの方針を考えます。その後、方針を元に整備を行います。



11月29日(日)

実践②

5日目に立てた計画や実践内容を振り返りながら、引き続き森づくりを進めます。グループでの検討や作業を通して、森を見る視点や判断力を養います。



4日目の講師紹介



清水 潤子さん

豊田市足助地区で「山里カフェMui」を営む猟師。獣害の実態を知ったことをきっかけに狩猟免許を取得し、現在は狩猟・解体・調理まで一貫して取り組まれています。ジビエの活用や命をいただくことの意味を伝える活動に加え、獣害対策や狩猟の普及啓発にも力を注いでいます。



山本 薫久さん

とよた森林学校理事。元小学校教員で、農的暮らしを求めて足助地域へ移住されました。長年にわたり、都市と農山村の交流事業や地域づくり、森林保全活動に携わるほか、市民参加による森づくりや「森の健康診断」の活動にも取り組まれています。また、「シカ問題を考える会」を設立し、地域の環境課題の解決に向けた活動を続けています。

現場紹介

かいしょ

◆海上の森(瀬戸市)

愛知万博記念の森として保全・活用されている地域です。瀬戸市南東部に位置し、豊かな森林や農地、湿地、水辺などさまざまな環境があり、たくさんの生きものが生息しています。あいち海上の森センターでは、この「海上の森」を将来にわたり保全するとともに、人と自然の豊かな関係づくりを目指しています。「海上の森」の中では、森林整備のフィールドも提供しています。

あなたも「海上の森」の森づくりに参加してみませんか？



開催要領



日 時	2026年10月31日(土)、11月14日(土)、15日(日)、21日(土)、28日(土)、29日(日) 各日午前9時から午後5時まで(集合時間は講座開始10分前) ※開始時間は日によって変わる場合がございます。受講決定後に通知します。
対 象	森女養成コース修了生やチェーンソーを使った伐倒の経験がある女性 ※高校生以上
定 員	12名
会 場	あいち海上の森センター(瀬戸市吉野町304-1)及び海上の森
受講料	無料(ただし、受講決定後にご自身で傷害保険に加入することが必要です)

受講を希望される方へ(申込方法)

申込方法	右のQRコード、もしくは下記URLのwebサイトにアクセスし、申込方法にリンクされた「愛知県電子申請・届出システム」からご応募ください。 https://www.pref.aichi.jp/press-release/08moriyo.html	
申込締切	2026年10月7日(水)	
受講者の決定	お申込みの内容により選考します。 受講の可否については2026年10月16日(金)までに全員にメールにて通知します。 応募者多数の場合は愛知県内在住・在学・在勤の方、または県外にお住まいで県内において森林ボランティア等を継続的に実施している方を優先します。	↑申込・詳しい 情報はこちら
注意事項	・野外実習がメインの講座となります。 ・受講に当たっては弁当・飲み物・ハイカットの安全靴や登山靴、作業用革手袋の持参が必要です。 ・会場への送迎はありませんので、事前に場所をよくご確認ください。 その他詳細は受講決定時にご連絡いたします。	
お問合せ先	あいち海上の森センター(☎ 0561-86-0606) 〒489-0857 愛知県瀬戸市吉野町304-1 メール: kaisho@pref.aichi.lg.jp FAX: 0561-85-1841 ホームページ: https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kaisho/	 ↑海上の森センター ホームページ